東海道
五十三驛
鍬山畧繪
下

見付

舞坂

濵枩

潮見坂

白須賀

吉田

吉田橋

赤坂

圓溪

鳴海

桑名
宮
七里渡

四日市
石薬師

庄野
亀山

珍康山

坂の下

水口

石部
草津

京三条大橋
大津

鉢山造り様之事

一
川砂と山土と我等分にこね合し随分こまかに入
よく地をならし石組ハ始と三方正面に
あるやうに組入候へし立石の数三ツ五ツ七ツと定るへし
数そろふにあるハあしく成る右ハ陰陽となるへて用ゆる也
其余四ツ六ツと偶数ハ無用なり数の石ハ天人地と組
合すへし天と云ハ石を云ハまかりたる天にならひへ各号の

景色有て趣ありきを云これ陽の石也人の石ハその
象山水中なにありて陰陽にあるを云是陰陽を
かねたる石也地の石と云ハ至りて平かなる平地
の如くあるを云是陰也右の如組合せ石ハ何程の
大盤にても絶妙の景色天然に調ふものなり

一　清水寺石　熊野石　安部川石

加茂川石　鞍馬石

其外諸国より産する石挙てかぞへかたしされとも大様に
石色合形ちを組入れし近年江戸駒込山の手より
切出せし石清水寺石に等し其余何国の石用ひても宜し
からんといへとも光りつや有石焼石海石杯苔つきかたし
これ等を以て甚だ嫌ふへし

一　苔付る石ハ付やう法ハ雨多の中へ半房を置て付
等分に合し朝夕石にそそけハおのつから能苔付もの也

又でゝむしがすり鉢かしぬり盆もよしと云り

一 春の景が作るゝハ天ゝ石に青石が用ゆへし 夏ハ
黒石秋ハ赤石冬ゝ景ハ白石用ゆべき事

一 植物ハ岩壁木の小葉あるもの植へし右もの
又ハおもひあしき木用ゆべからず

一 蒔砂ハ 兵庫砂 淡路砂 備後砂 江盆砂
右等ゝ砂上品とス砂ゝ蒔方白砂ハ水と見え

黒き砂ハ陸と云ふ赤色又ハ茶色ゝ砂ハ河原と
見るなりた蒔べし

一 日本ゝ景に唐の家かゝの人物用ゆべからず

一 唐の景色の築山ゝハ唐人用ゆべき事

一 雪中ゝ築山植るゝハ石に蝋のりがぬり盆山に
用る穴の波砂とスる砂ありかけし雪のあの山と
なる樹木ふかゝるとてもいるむすなし

一 谷川ハ船の往来なし筏のり此人数立へし
一 地苔ハ杦苔によく水かけてよし
一 都ハ深山雨露よく植木が苔ハ之ニ満水にして
よくくもりし靄かけたるよし長雨ハ苔後ひらく
一 其後を晴ハ本苔がかけすのこ日もあまり清よく
晴りては是文よろしからん此外用る時ハ気を付
紙数にて及ハず深山幽谷を有と心得べきなり

本邑唐船舞作
南遊斎芳重画

嘉永元戊申歳五月發兌

浪花書林

心斎橋通順慶町
大藤屋亀三郎

心斎橋北久太良町
鹽屋忠兵衛

同 本町
鹽屋弥七